

2024年
11月2日(土) — 12月25日(水)

開館時間 午前10時〜午後5時(入館は午後4時30分まで) 毎週金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)
休館日 毎週月曜日(ただし11月4日は開館、11月5日(火)
入館料 一般1200円・高・大生800円(団体20名以上、各200円引)、中学生以下無料(ただし保護者の同伴が必要です)
※11月2日(土)〜8日(金)は「学生フリーDays」を開催します※障害者手帳をお持ちの方は200円引、その介護者1名は無料です
列品解説 11月7日(木)、11月28日(木)、12月12日(木)いずれも午前10時30分より/11月8日(金)、11月29日(金)、12月13日(金)いずれも午後6時より
主催 出光美術館、トルコ共和国大統領府宮殿局、トルコ共和国文化観光省、日本経済新聞社
後援 駐日トルコ共和国大使館、外務省、文化庁、東京都教育庁/特別協力 出光興産、ターキッシュエアラインズ、日本通運
協力 トルコ共和国外務省、トプカプ宮殿博物館、トルコ・イスラーム美術博物館、日本・トルコ協会、二宮宮記念財団
学術協力 中近東文化センター 会期開館時間等は都度変更する場合があります。最新情報は当館ウェブサイトまたはハローダイヤルでご確認ください。

出光美術館



青磁瓶 中国 龍泉窯 元時代 14世紀 出光美術館



白磁多彩皿 オスマン帝国時代 16世紀後半 出光美術館



青花水注 中国 景徳鎮官窯 明 洪武時代 1368-98年 出光美術館

出光美術館

所蔵

名宝の競演

トプカプ宮殿博物館

The Treasures from the Collections of the Topkapı Palace Museum and the İstisnu Museum of Arts



宝飾コーヒーカップ・スタンド オスマン帝国時代 19世紀 トプカプ宮殿博物館 2/1917



職製宝飾箱 オスマン帝国時代 16世紀 トプカプ宮殿博物館 2/2084



吊し飾り オスマン帝国時代 17世紀 トルコ・イスラーム美術博物館 187



バラ水入れ オスマン帝国時代 16世紀 トルコ・イスラーム美術博物館 91



亜鉛製マグカップ(部分) オスマン帝国時代 16世紀末 トプカプ宮殿博物館 2/2836

The 100th Anniversary of the Establishment of Diplomatic Relations between Japan and Türkiye
日本・トルコ外交関係樹立100周年記念

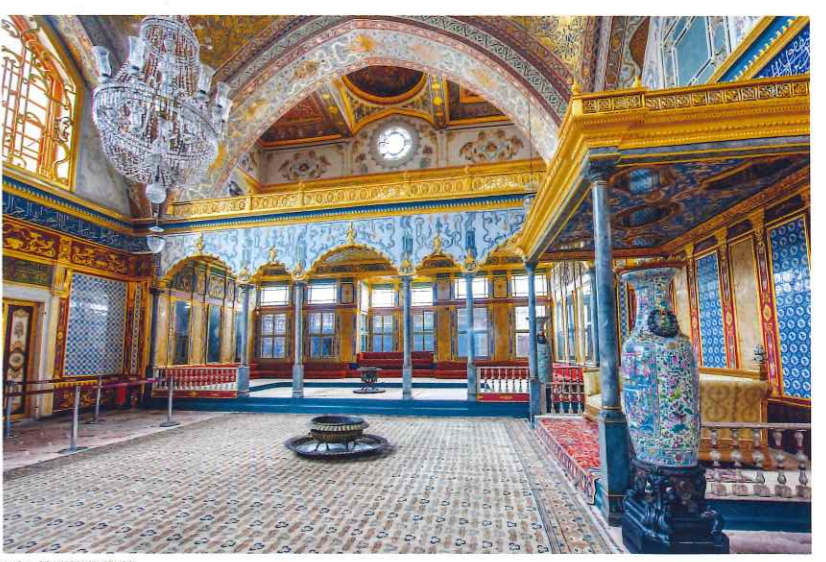


トプカプ宮殿博物館(外観)



トプカプ宮殿博物館

トプカプ宮殿は1467年に建造され、1856年までオスマン帝国のスルタンの居城として使用されました。トルコ共和国が成立した直後の1924年に閉館し、それ以降、多くの人たちが訪れる人気のスポットとなっています。歴史的建造物であり、様々な美術品などのコレクション、約30万点のアーカイブ文書を備えたこの宮殿は、世界有数の宮殿博物館の一つとして知られています。



トプカプ宮殿博物館(館内)



トルコ・イスラーム美術博物館(外観)



トルコ・イスラーム美術博物館

トルコ・イスラーム美術博物館は、オスマン帝国時代に閉館した最後の博物館であると同時に、トルコとイスラームの美術品を収集したトルコ初の博物館です。現在の博物館は16世紀のオスマン帝国の建築の中で最も重要な建物の一つとされる、イブラヒム・パシャ宮殿を活用しています。コレクションは極めて多様で、イスラーム美術の最も初期の時代から20世紀までの幅広い作品(カーベット、写本、ガラス、金属器、陶磁器など)を所蔵しています。



トルコ・イスラーム美術博物館(外観)



【交通】JR「有楽町」駅 国際フォーラム口より徒歩5分
東京メトロ有楽町線「有楽町」駅/都営三田線「日比谷」駅 B3出口より徒歩3分
東京メトロ日比谷線・千代田線「日比谷」駅
有楽町線方面 地下連絡通路經由 B3出口より徒歩3分
【Directions】5 min walk from the International Forum exit of JR Yurakuchō station
3 min walk from B3 exit of Subway Yurakuchō or Hibiya stations

出光美術館

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 帝劇ビル9階(出光専用エレベーター9階)
【TEL】ハローダイヤル 050・5541・8600(展覧会案内)
【開館時間】午前10時〜午後5時(入館は午後4時30分まで)
毎週金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)
【休館日】毎週月曜日(ただし月曜日が祝日および振替休日の場合は開館、翌日休館)、展示替期間
【入館料】一般1200円/高・大生800円(団体20名以上 各200円引)
中学生以下無料(ただし保護者の同伴が必要です)
※障害者手帳をお持ちの方は200円引、その介護者1名は無料です
【URL】<https://idemitsu-museum.or.jp/>

Idemitsu Museum of Arts

9th Floor, Teigeki Bldg., 3-1-1, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-0005
【TEL】050-5541-8600 (General Information)
【Hours】10:00 a.m. - 5:00 p.m. (Entrance until 4:30 p.m.)
Friday: 10:00 a.m. - 7:00 p.m. (Entrance until 6:30 p.m.)
【Closed】Mondays (Excluding holidays. The Museum will be open on that Monday and closed the following day.) and during the change of exhibits
【Admission】Adults: ¥1200 / High School and College Students: ¥800 (Groups of 20 or more receive discount of ¥200 each) / Junior High School Students or Younger: Free (with Parent or Guardian)
* ¥200 Discount for Persons with Disability with presentation of Physical Disability Certificate and Free Admission for 1 Caretaker
【URL】<https://idemitsu-museum.or.jp/en/>
Please check our website or General Information for the latest information.

【主催】出光美術館/トルコ共和国大統領府宮殿局/トルコ共和国文化観光省/日本経済新聞社

【後援】駐日トルコ共和国大使館/外務省/文化庁/東京都教育庁

【特別協力】



【協力】



【学術協力】

中近東文化センター

お知らせ
当館はビル建替計画に伴い、本展の終了をもって休館いたします。今後の予定につきましては、決定次第、公式ウェブサイトにてお知らせいたします。



公式サイト



トプカプ宮殿

博物館

名宝の競演

出光美術館 所蔵

The 100th Anniversary of the Establishment of Diplomatic Relations between Japan and Turkey
The Treasures from the Collections of the Topkapı Palace Museum and the Stieglitz Museum of Arts

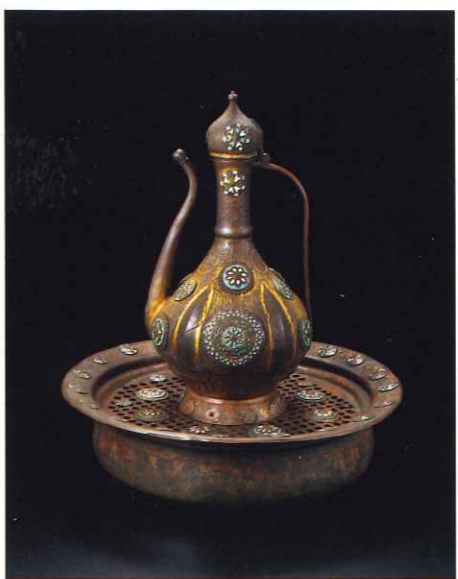


日本とトルコ共和国が外交関係を樹立して100周年を迎えた本年、出光美術館では両国の友好を記念し、トプカプ宮殿博物館に所蔵される至宝、また本展の趣旨にご賛同いただき出品協力をいただきましたトルコ・イスラーム美術博物館の名品、さらには当館が誇る中国・日本陶磁やトルコ陶器の数々をご紹介します特別展を開催いたします。世界の人々を魅了してきた名宝の競演をお楽しみください。

【第1章】

華やぐ宮殿の宝物

スルタン(帝王)が居住し、政務をつかさどっていたトプカプ宮殿。宮殿には宝石・貴金属が集められ、その数や豪華さはオスマン帝国の繁栄の象徴ともいえます。本章ではスルタンをはじめ、宮殿の華麗なる日常を彩った宝飾品やうつわ、イスラーム文化により育まれた美しい装飾の魅力や技術の粋をご紹介します。



盥・水差 オスマン帝国時代 18世紀
トルコ・イスラーム美術博物館 3977



ソルグチュ オスマン帝国時代 17世紀 トルコ・イスラーム美術博物館 418



カップとスタンド オスマン帝国時代
19世紀 トプカプ宮殿博物館 2/2330



七宝製宝飾カップセット オスマン帝国時代 18世紀
トプカプ宮殿博物館 2/7624



水晶製宝飾蓋付マグカップ オスマン帝国時代
16世紀 トプカプ宮殿博物館 2/466

【第3章】

日本陶磁の名品

東西交流の証Ⅱ

17世紀中頃になると、肥前(現在の佐賀県、長崎県の一部)の陶磁器は海外へ輸出され始めました。それらは日本独自の様式を生み出しながら、1757年までオランダ東インド会社を通してヨーロッパへ輸出され、王侯貴族のあいだで好まれます。特に古伊万里はトプカプ宮殿にも舶来していますが、室内装飾というよりも、「用の美」を備えたうつわとして、その役割を果たしていました。



色絵蓋付花瓶 日本 有田 古伊万里 江戸時代中期 1700-30年
トプカプ宮殿博物館 15j/253



色絵皿 日本 有田 柿右衛門 江戸時代前期 17世紀
出光美術館



色絵皿 日本 有田 古伊万里 江戸時代中期 1700-30年
トプカプ宮殿博物館 15j/42

【第2章】

中国陶磁の名品

東西交流の証Ⅰ

9世紀以降、中国陶磁の輸出が本格化すると、その質の高さ、装飾の美しさに多くの人々が魅了され、トルコをはじめ西アジアでも流行します。その後、中国陶磁はイスラーム文化・美術の要素も取り入れながら新しい造形・意匠を創出してきました。まさに東西の相互交流の中で、新しい中国陶磁の歴史が生み出されたのです。



青花皿 中国 景德鎮官窯 明 永楽時代 1403-23年 出光美術館



青磁皿 中国 龍泉窯 明時代
14世紀後半-15世紀初 トプカプ宮殿博物館 15/1453



青花皿 中国 景德鎮窯 明時代 15世紀後半
トプカプ宮殿博物館 15/9234



青花筆箱 中国 景德鎮窯 明時代 15世紀-16世紀
出光美術館



青花扁壺 中国 景德鎮窯 元時代
14世紀 出光美術館



青花瓶(水差) 中国 景德鎮窯 元時代 14世紀
トプカプ宮殿博物館 15/1453



青花壺 中国 景德鎮窯 元時代 14世紀
トプカプ宮殿博物館 15/1366

【第4章】

鮮やかな トルコの タイル・陶器

トルコの伝統美ともいえる色彩の鮮やかさ、そしてバラ、チューリップ、唐草などが愛らしく描かれた植物文様や神秘的な幾何学文様などが特徴的なトルコの陶器。また様々な色彩・文様で飾られたトルコのタイルは、トプカプ宮殿やモスクなどにおいても重要な建築の装飾として親しまれてきました。ここでは出光美術館が所蔵するトルコの陶器から、その魅力をご紹介します。



白釉多彩タイル オスマン帝国時代
16世紀後半 出光美術館



白釉多彩皿 オスマン帝国時代
16世紀末-17世紀初 出光美術館



藍釉多彩取手付瓶 オスマン帝国時代
16世紀後半 出光美術館

アジアとヨーロッパをつなぐ悠久の国際都市、トルコ・イスタンブールは15世紀中頃からオスマン帝国(1299-1922)の首都となりました。歴代のスルタンは、この地に築かれたトプカプ宮殿に居住し、政務をつかさどり、その後16世紀に入り、オスマン帝国は中東、北アフリカ、中部ヨーロッパにまたがる最大領域を形成しました。トプカプ宮殿には貴金属をはじめ、東アジアからヨーロッパにおよぶ地域の珍しい宝飾品が集められ、彼らはそうした品々を使用したり、飾ったりしながら大切に継承しました。その所蔵品には当時の世界最高峰である中国・景德鎮窯や龍泉窯などの極めて良質な陶磁器が含まれ、宮廷コレクションとしては質量ともに世界屈指と評されています。くわえて日本陶磁も数多く舶来、所蔵されています。一方、出光美術館も中国・明時代を中心に皇帝・宮廷用に焼かれた官窯作品や江戸時代に海外へ輸出された陶磁器を有しており、中にはトプカプ宮殿博物館の作品の類品も知られています。